ヨシナカ新聞

１０月号
発行所
㈱北陸ヨシナカ
東京営業所
TEL:03-3555-0796
FAX:03-3553-8444

会社帰りに

涼しくなったので、会社帰りに、事務所がある八丁堀から地下鉄で二駅の距離になる門前仲町（もんぜんなかちょう）まで歩いてみました。途中、茅場町から東に少し歩いたところに隅田川に架かる『永代橋』という橋があり、そこから臨む夜景が綺麗だったので撮影しました。この風景だけ見ていると、まるでニューヨークにいるような感じです。行った事ありませんが（笑）

ステンレスmame知識

ステンレスの種類

ステンレスと言っても一つの種類ではありません。ではどんな種類があるのでしょうか？

ステンレスは大きく分けて、『オーステナイト系ステンレス』、『フェライト系ステンレス』、『マルテンサイト系ステンレス』の３種類があります。

先々月号(8月号)で、スプーンの裏等に『18-8 Stainless』とか『18-10 Stainless』と書いてあるという事を書かせて戴きました。

18-8の最初の18はクロムの含有量(%)を表します。先月号で『12%以上のクロムを含む鋼』がステンレスの定義だということ、また、クロムが12%以上になると腐食量が極めて低くなるということを図とともに説明させて戴きました。

次に18-8の後の8はニッケルの含有量(%)を表しています。ニッケルはクロムが酸化して出来た被膜をより強固にする役目を果たします。

このクロム18%、ニッケル8%を含むステンレスを『SUS304』と呼びます。SUSは『Steel Use Stainless』の頭文字を取った略語でステンレスだよという事を表しています。

このSUS304という鋼種は、オーステナイト系ステンレスに属し、現在使用されているステンレスの約７割以上を占めています。

ニッケルを含まず、18%のクロムを含むステンレスをフェライト系ステンレスと呼びます。ニッケルを含んでいない分、オーステナイト系ステンレスより耐食性（錆びにくい）は劣り、常に強い磁性があります（オーステナイト系ステンレスは熱処理後は非磁性）。代表鋼種はSUS430です。

最後に、ニッケルを含まず、13%のクロムを含むステンレスをマルテンサイト系ステンレスと呼びます。ニッケルを含まず、クロムの量もフェライト系ステンレスよりも低いので、耐食性が一番劣りますが、920℃～1,070℃に加熱、急冷する焼き入れという熱処理が可能で、刃物等にもなるというオーステナイトやフェライト系ステンレスにはない性質を持っています。代表鋼種はSUS410です。

ハイジのブランコ

テレビアニメ『アルプスの少女ハイジ』のオープニングでハイジが乗っていた長～～～いブランコを覚えていらっしゃいますか？　当時私はあのブランコに憧れていたのですが、年齢を重ねる度に現実的になってきたのか、どうやって乗るんだろうと不思議に思っていたのですが、なんと、このハイジのブランコを科学的に解明した本があります。『空想科学読本３』（メディアファクトリー柳田理科雄）。

美しいスイスのアルプスでハイジはとても気持ちよさそうにこのブランコに乗っていましたが、あまりにも長くないだろうかという疑問を持った著者。テレビの画面には映っていなかったものの、前方の空中で一瞬停止してから後方で止まるまでの時間（6秒）から、往復の周期は12秒と判明。また、停止した時の角度が70度であったことから、ブランコの長さは37Mで落差は25M、最高速度は東京ディズニーランドのジェットコースター・スペースマウンテンより早い時速79㎞という計算結果になったそうです。

通常、公園のブランコの長さはおよそ2M（周期約2.8秒）なので、いかにこのブランコが長いことがわかります。また、シートベルトもなくお尻の下の板と両腕だけが頼りのブランコで、後ろ向きの時速79㎞は心臓が点になる程怖いだろうと。。。

また、このブランコは画面から彼女の足元の遥か下界を、協会の尖塔（せんとう）が行ったり来たりしているので、目測で高さ100Mくらい。その上にロープが37M伸びているのだから、地上137メートル以上の高さの木等に横板を張ってブランコが設置されていることになります。ハイジは、まず137メートル垂直登木を達成し、その後、横板を渡り、ロープ伝いに37メートル滑り降ります。ブランコの板に座ったとき、お尻は上空100メートルの位置です。皆さん、目を閉じて想像してみてください。怖い～。

続いて全身を躍動させ、徐々にブランコを大きく漕いでいって、やがてジェットコースターを超えるスピードを満喫します。遊び終えると、ロープをメートルよじ登り、横板を渡って巨木に乗り移り、幹伝いに137メートル滑り降りるのです。これは相当大変でブランコ漕ぎに夢中になりすぎると、体力を消耗して滑落する恐れもあります。

ということで、137メートルの木登りから始まるこのハイジのブランコは命を落としかねない非常に危険な遊びという事が判明したのでした。

K社員のピアノ奮戦記 第三十二話『弾き方』

レッスンに『ハノン』が加わり、依然として指が残る癖がある私に、付点とスタッカートでも練習しましょうとI先生。付点はスキップみたいなリズムで弾きます。これはなんだかリズムカルで楽しい。

しかし、音を短く切って弾くスタッカートはうまく音を切れません。先生からもスタッカートになっていませんねと厳しいお言葉（トホホ）。ピアノってやっぱ難しいなぁ。

でも、数度のレッスン後、ちょっとした発想から感覚がわかったような。それは、熱～いやかんを指で触ってすぐ放す感覚。「熱っ！」

それが徐々に頭の中では「アチョー」とか「アチャー」とかに変化しながら鍵盤を押さえています。ブルースリーみたいで楽しい！

次のレッスンで、このスタッカートを真面目な顔をしながら頭の中はやかんと戯れるブルースリー状態で弾いていきます。「スタッカート、弾けるようになって来たじゃないですか」

先生から褒めて頂き、嬉しくて木に登る私。でも、さすがに頭の中で「アチャー」とか「アチョー」が鳴っているとは言えませんでした。